

今回の海外活動によって得られた成果・感想

K.Y (Male)

2013年2月4日から3月1日まで4週間にわたって University Malaysia Sarawak の医学部にて実習を行い、現地の最終学年である5回生と共に Bed Side Teaching と講義を受けました。

英語でのコミュニケーションに関しては概ね問題なかったのですが、やはり医学英語には苦労しました。予めある程度は学習していたものの、もちろん全てをカバーすることは出来なかつたので、辞書を活用しながら講義を受けました。それでも初めに比べると、格段に理解は出来るようになったと思います。

加えて医療における様々な違いを体感することが出来ました。国が違えば気候も生活も文化も違うため、もちろん疫学的によく見られる病態は異なってきますが、医師の日々の仕事や病院の構造に関して見れば日本とほぼ同じであると感じました。

最も印象的であったのは、ほぼ全ての医師の speciality が一般外科もしくは一般内科であることであり、これは医師不足により1人の医師が多くの患者を診察しなければいけない現状から来ていると思われます。ただ一般外科もしくは一般内科を speciality としていても、その中で専門分野を持っておられる医師がほとんどでした。

医学生の教育においても大きな違いがあり、現地の医学生は Bed Side Teaching と講義を中心に学習を進めていますが、Bed Side Teaching に大きく重点を置いているように感じました。1人の患者に対して、学生のプレゼンテーションから始まり、プレゼンテーションの方法、病歴の聴取や身体所見の取り方など細かな点に至るまでじっくりと時間をかけて担当の医師を中心に議論されていました。また「もしこの検査が出来なければどうするか。」「病態について患者にどのような伝え方をするのか。」や「もし年齢がもっと若ければ何を疑うか。」など、その患者と直接的には関係のない広範な医療知識に関しても医師と学生の間で質疑応答が重ねられており、とても実用的な実習であるという印象を受けました。

また講義においては、学生が殊更真剣に取り組んでいるという様子ではありませんでしたが、とても自由な雰囲気の中で講義がされていて、担当の医師からの問い合わせにも学生それぞれが口々に答えるという積極性が見られました。さらに、それぞれの先生が冗談や笑い話を交えて講義されていたので、とても面白く飽きずに講義を受けることが出来ました。

4週間の日程の中で現地の医学生との実習とは別に手術の見学もさせて頂きました。自分自身の勝手な想像で、手術器具や手術の段取りなど日本と違うのではないかと思っていましたが、手術に関しては手術室、清潔の管理、手術器具、手術中の医師と看護師のチーム体制など、全てにおいて日本と同じであると感じました。

この1ヶ月の実習を通して得た貴重な経験を自身のこれから学習に役立てていきたいと思います。